

東 だ よ り

武蔵野東学園広報 第56号

2020年 9月30日発行

〒180-0012 東京都武蔵野市緑町2-1-10

TEL 0422-52-2211 (代) FAX 0422-53-1090

<https://www.musashino-higashi.org>

子どもは子どもから学ぶ

中学校校長 菊地 知恵子

学校に行くという日常が長期間にわたって断ち切られることは、この災禍がおとずれるまでは想像だにしないことでした。今年度春からの休校期間、社会全体が“自粛”に息をひそめる中、学園のそれぞれの園校では子どもの健やかな成長と学びのために、まさに“手作り”の教育を子どもたちに届ける懸命の取り組みが続きました。

本学園にとって幸いだったのは近年力を入れてきていたオンラインシステムの構築やICT機器の整備により、それらを使った家庭との連絡手段が早い時期にととのえられたことでした。中学校では休校に入った次週からYouTubeの専用チャンネルを通じて、オンラインの授業動画配信を時間割通りに行い、すでに全員に配布していたGoogleのアカウントを通じて授業課題のやりとり、また双方向通信による対面での授業を行い、ほぼ通常通りにカリキュラムを進めることができました。最終的には配信した動画授業は500本を越えていたかと思います。それぞれの園校ならではの工夫に満ちた授業動画は、ご家庭で保護者の方がお子さんと一緒にご覧になっておられ、はからずも毎日が“家庭内授業参観”の様相となり、後日、保護者の方から授業についての感想をいただくこともありました。これら即時の対応と連携は東学園ならではのことで、ご家庭のご協力に感謝しております。

「オンラインで学べるなら、必ずしも学校に行かなくてもいいじゃないか。」世間ではそんな言葉も聞かれます。たしかにオンラインにより学びの可能性は広がりました。中学校でもほぼ一人一台の端末機器(Chrome book)の導入を急ぎ、いまやオンラインでの学びは欠かせません。しかし、オンラインでの教育が可能になった一方で、実際の対面による教育の価値が再確認できたことも確かです。本学園では、特に自閉症児クラスの教育は、対面なくしては成り立ちません。

学校と言う場合は、まさに人と人が集うことによる価値によって成り立っていると言っても過言ではありません。学校には先生が待っている。教室には友だちがいる。誰かの発言に笑い声がおこる。向かいの教室にいる友だちは何をやっているところだろう。掲示板には友だちの描いた絵がある。運動場に出れば誰かの声が響いている…。学校にはそこかしこに“場”があり、“まなざし”がある。子どもは、その瞬間瞬間に何かを学びとっています。それは大人が意図する教育以上のものです。学校という集団の中で、“子どもが子どもから学ぶ”ことは、東学園では教育の位置づけとして特に重要視してきたことです。友だちのやっていることを見て「ああ、そうか」とやってみる。自分ができたら友だちに「こうしてみなよ」と声をかける。行事に向かう雰囲気飛び込んでいくこと。みんなでやり遂げたことに感動すること。自分を認めてくれる仲間がいて、がんばっている仲間を称えるのもうれしいことだと知る。“集団力学”とは言い得て妙で、学校とは“集団の場”そのものであり、この見えざる力の養分を浴びることこそが学校に来る価値ではないでしょうか。この“集団の場”のもつ力は、子ども自身が意識していないことであるからこそ大きな効果を生んでいるものかもしれません。

コロナ禍は世界規模で人を分断し、コミュニケーションのあり方を問い続けることになっています。テレワークに移行していく会社もありますが、教育はオンライン学習が解決策ではありません。教育の価値はもっと真剣に議論されなければなりません。世界中が同じ時代を共有しながら模索している今、学校でもリスクとのバランスをとりながら、今年ならではの実りを求めていきたいと思います。

成長を続けていくための新たな取り組み

2020年4月、例年のような当たり前の光景が一変した年度のはじまりでした。新型コロナウイルス感染拡大予防のため、入園式はクラスごとに分散しての実施、保育は5月末から分散登園となりました。自粛を余儀なくされた期間は、家庭にいながらも幼稚園や友達とのつながりを感じられるように、ICT環境を身近なものとして積極的に活用し、家庭でも楽しんで過ごせる工夫をしました。



110本を超える動画コンテンツ配信

110本を超える家庭にいても楽しめる動画コンテンツを作成

し配信、またオンラインでのクラスの集まりや交流などの保育も定期的に行いました。「進級した実感が持てたようです」「先生や友達の顔を見られて喜んでいました」「夢中になっていました」「前夜は何着ようかな、髪型どうしようかな、と楽しみにしていました」など、保護者の皆様から感想をいただき、自粛期間においても、幼稚園と子供との繋がりを維持することができたのではないかと感じています。また、ICT環境がより身近になる機会にもなりました。

「子供たちの成長を保証する教育環境を維持するためにできること」を軸に、保育を再開するにあたっては、安心安全を土台にするための感染予防対策の徹底と、園児全員の成長を保証する教育環境をどうやって整えていくのか、活動や行事の見直しを進めてきました。

家庭で過ごしていてもその時期に実施すべきこと・時期を逃さないこと(誕生会等)はオンラインを活用しての実施。春の運動会・保育参観・夏の夕涼み会やお泊り保育などの行事は、延期を含めた内容の見直しと再構築。コロナ禍の状況の中でも発達に即した育ちを保証し、子供たちが楽しかったと感じ、またやりたい・もっとこうしたいと思える生活や行事のあり方について考え、単に行事をなくしたり簡素な内容に変えたりすることではなく、保育を問い直すことで、ICT機器の活用など、成長を続けていくための新たな取り組みも生み出すことができました。

幼稚園



新入園児／第56回入園式



年中／きら☆きらまつり

年長サマーアドベンチャーツアー2020



スーパーミラクル迷路を作りました

年長お泊り保育は、コロナ禍で宿泊を伴う保育が難しいと判断し、内容の見直しと企画の再構築をしました。

まずこの時期に年長児の育ちで大事にしたいことは、お互いの考えを出し合い友達と一緒に協力して活動を進めることです。みんなの中で自分の役割を見つけ、できることを意欲的に取り組むこと。そして一緒に活動に取り組む楽しさを経験することです。登園が再開し「この日にみんなで楽しめることは何か」について、クラスで話し合いがはじまりました。

話し合いの過程では、様々なアイデアが出たり消えたり、誰かと誰かのアイデアが組み合わせあって新しいアイデアが生まれたりしていき、クラスごとにみんなで楽しめるものを製作することになりました。

さっそく製作がはじまり、様々な素材を使って、道具を駆使しながら一人一人が思い描くイメージを形作り、製作を楽しみました。みんなを驚かしたいという本気が、互いに相談し合い、仕掛けづくりに試行錯誤する姿になり、年長児の確かな育ちに繋がりました。



理科実験教室／空気砲

また、武蔵野東小学校理科の先生が、今年は動画で開催してくれた“理科実験教室”。動画のメリットを活かし、不思議な実験の様子を、何度も繰り返して視聴することで、空気砲の学びからお化け屋敷の仕掛けを考え出す取り組みも生まれるなど、みんなで夢中になりながら充実した協同製作の時間が進みました。

当日にむけて、みんなで楽しむため、アクティビティー選びから、ゲームなどに必要な準備を進めていくための係決めなど、

どの子も真剣に取り組んでいる様子が見られ、新しい取り組みとしても大成功でした。当日は、ふわふわの触感を味わえるスライサーで作ったかき氷や、流しソーメン風キャッチャーゲーム、美味しいカレーライス、そしてツアーの最後に保護者の方と花火を楽しみ、ご家族の方も一緒に心に残る充実した一日になりました。

☆幼稚園の取組みが文科省HPに紹介されました

全国の幼稚園等の取組み例が、文部科学省ホームページ内にある「臨時休業期間における学習支援コンテンツポータルサイト（子供の学び応援サイト）」にて、よい取組みの事例として紹介されました。本園からは4事例を取り上げていただき、園名とともに紹介されています。



「新型コロナウイルス感染症への対応のための幼稚園等の取組事例集（令和2年5月13日時点）」

小 学 校

新しい学校生活様式



「新しい学校生活」

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため4月から6月の約3か月間、休校を余儀なくされました。この間、動画での授業配信やZoomでのホームルーム、分散登校、短縮授業を経て、6月下旬から通常登校となりました。

しかし、これまでの学校生活とは大きく変わり「新しい学校生活様式」のもと、子どもたちの生活は変化しました。検温の習慣、手洗いや消毒の徹底、マスクの着用、ソーシャルディスタンスなど、子どもたちは新しい学校生活の約束をしっかりと守りながらの学校再開

でした。毎年1年生は、6年生と一緒に遊んでくれたり、学校のことを教えてくれたりと交流が盛んに行なわれるのですが、それも今年はできません。6年生は、「学校紹介」という形で、学校の中のことをプリントに書いて1年生の子どもたちに送ってくれました。また、7月の七夕には、短冊や飾りを準備して教室を彩ってくれました。そんな6年生に、1年生の子どもたちはお礼の気持ちをビデオに収め届けました。対面での関りはもてずとも、このような交流も新しい学校生活にはあるのだということを感じました。

8月27日には、いつもより少し早い後期の始業式がありました。式はライブ中継で行なわれ、子どもたちは教室の電子黒板に移る校長先生をしっかりと見て話を聞いていました。引き続き感染症対策をしっかり行い、新しい学校生活を進めて行きたいと思います。



「七夕の短冊」

ICT環境の整備とiPadの活用

小学校では数年前からICT環境の整備に力を入れており、学校内のインターネット環境の整備、みらいスクールステーションの導入、iPadの増台などに取り組んできています。iPadは各教科内での調べ学習、発表、プログラミングのアプリの活用、コラボノートを使用して意見の共有などに活用し、学習の幅がぐっと広がりました。また、Qubena (AI型学習アプリ) で算数の個別学習も進めています。



夏休みの宿題には、児童が自分でテーマを決めて研究する「一人一研究」があります。新学期が始まると各自がその研究を発表することになっていますが、今年は、iPadを使って発表内容をまとめて行っている学年も多くありました。このように、ICT環境が整ってきたことで、子どもたちの学びの形も大きく変化しています。

夏休みを終えて

夏休みには教育環境を整えるため工事や教育機器の入れ替えを行いました。まず、西館3階の教室と廊下の壁や扉がリニューアル(昨年度は2階を施工済)され、木の雰囲気が漂う温かい空間になりました。また、各教室の空調機も入れ替えて、効率よく冷暖房が使用できるようになりました。

西館1階のサブアリーナには壁一面のスクリーンとプロジェクターを設置。学年で子どもたちが集まって学習をすることや保護者会などでも活用できるようになりました。そして、コンピューター室のリプレースを行い、最新のモデルが導入されました。



友愛会 大改編

昨年度末に友愛会生徒の発議により、生徒総会が開かれ、友愛会の会則が改訂されました。新たな友愛会組織は、生徒が協働して学校生活をよりよくするためのビジョンを持ち、同時に世界に目を向けた価値観を磨くために、全員が所属する「委員会」に加えて、活動期間を限った「プロジェクト」から構成されます。9つあった委員会も6つ（うち5つは新規の委員会）に改編されるとともに、委員会ごとの人数も制限を設けず、またCDE組生徒のみで構成される委員会も立ち上がりました。

新型コロナウイルスの影響により、1学期の活動も当初の予定通りには進みませんでした。1学期末には『36期友愛会』の発足式も開催され、本格的なスタートを切っています。総務委員長より今期の方針が示された後に、各委員長が3年生から今年度のビジョンが説明されました。合わせて、SDGs（持続可能な開発目標）プロジェクトの募集も行われています。すべてが生徒の手によって運営された発足式からは、新しいものを創り出していこうとする生徒の気概が感じられました。

“Think Globally Act Locally”、地球規模で考え、地域で行動しようの精神を学校生活にうつし、失敗をおそれずに取り組んでいくことを期待しています。



ICT環境の整備

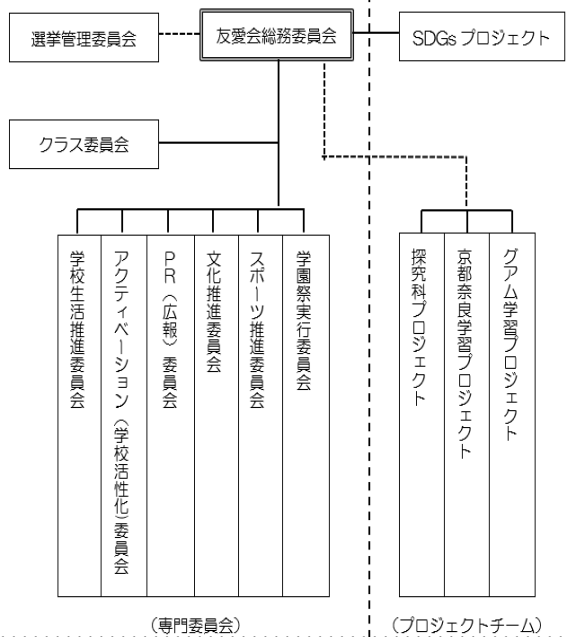
4・5月のオンラインでの授業を経て、6月1日より登校再開しましたが、今後も見据えてICT環境の整備を予定を前倒して進めました。6月1週には無線アクセスポイントを全館に設置し、校舎のどこでもWi-Fiにつながるようになりました。また、生徒が使用する端末(Chromebook)も昨年度導入の80台、4月に導入の65台に加えて、140台を追加で7月に導入。これで計285台の端末が揃い、一人一台の配備が概ね完了しました。AB組全教室には合わせて充電保管庫も設置しています。

AB組生徒には全員に貸与の形で配布し、学校内とともに家庭においても端末を使用した学習が可能となっています。夏休みに2AB生徒は全員が持ち帰り、探究科のアドバイザーの先生とやりとりを行いながら活動の確認を行うなど、ICT環境の変化により学びの形も変化し、深まりを見えています。



中学校

【組織図】

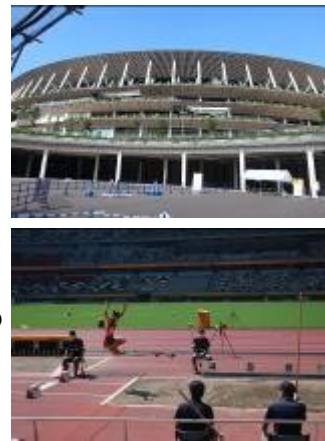


陸上部 今夏も活躍!

夏の大会の多くが中止となる中、陸上競技に関しては、日本陸上競技連盟により東京都大会（8/29・30）と全国大会（10月）が開催されることとなり、本校の陸上部も都大会に向けた予選、そして都大会に出場しました。

1学期は部活動も例年に比べれば、数少なく、限られた練習時間でしたが、8/1～9に行われた都大会予選では、練習の成果を発揮し、10種目において優勝・入賞。9名が都大会出場を決めました。特に3年走り幅跳びにおいては1名が関東選抜選手に選ばれ、8/22に新国立競技場にて、セイコーゴールデングランプリ陸上2020東京ライジングスター陸上大会に出場、5m24の記録で24名中5位に入賞しました。

そして、8/29・30に実施された第66回全日本中学校通信陸上競技東京大会兼全国大会予選会では、見事4名が入賞を果たしました。うち3年女子1名は全国ランキングが23位となり、10月の全国大会出場を決めています。



新型コロナウイルス対策 ～高等専修～

本格的に生徒を迎え入れる6月を前に、教職員で様々なシミュレーションを繰り返し、意見を出し合い、消毒の行い方など念入りに生徒の受け入れに向けて準備を進めました。いくつかのアイデアが校内に反映されていますが、今回はその中で二つ紹介いたします。一つ目は、「飛沫防止シールド」です。このシールドですが、実は手作りです。シールド①写真は卒業式や入学式に張る紅白幕の支柱を用いたもので、多少授業者が左右に移動しても、飛沫が前に飛ぶことはほとんどありません。シールド②写真は卓球の防球ネットにシールドを張ったもので、コンピュータ室で生徒同士の飛沫防止に一役買っています。二つ目は、「教室の大移動」です。生徒同士の間隔が密にならないように、何回も間隔を測りながら机を並べるのですが、どうしても収まりきらないクラスが一つ。そこで考えたのが、3階から1階への教室の大移動です。普段来客が待機したり、話をする広いスペースである1階の談話室を、該当クラスは教室として活用しています。今は全く違和感なく、間隔を確保しながら、生徒も伸び伸びと生活しています。今後も教職員でアイデアを出し合いながら、生徒が安全に生活できる場を提供していきます。

高等専修学校



シールド①



シールド②



1階の教室

第30回全国高等専修学校体育大会

8月25日(火)～26日(水)の2日間、山梨県富士吉田市富士北麓公園を会場に、全国高等専修学校体育大会が開催されました。新型コロナウイルス対策により、規模を縮小しての大会となりましたが、今年度は30回の記念大会ということもあり、各競技熱戦が繰り広げられました。本校は、駅伝男子、陸上競技男子、卓球男子、軟式野球、スポーツウエルネス吹矢、自転車競技男子女子の7種目に、24名の代表生徒が参加しました。コロナ禍の中、思うような練習ができず苦労しましたが、それでもその成果を発揮して自転車競技団体女子優勝(大会2連覇)とスポーツウエルネス吹矢団体優勝をはじめ、どの競技も好成績を収めることができました。



2連覇を果たした自転車競技団体女子

文部科学省委託事業採択

2018年度から文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業(学びのセーフティネット機能の充実強化)」について、本校を中心に全国の複数校で「チーム高等専修学校」モデル事業を推進し、今年度が3年目の最終年度になります。本校では、発達障害など特別に配慮が必要な生徒の社会自立のための就労支援及び卒業後の定着フォロー支援、ハローワークとの連携による障害者雇用セミナーの実施、社会福祉法人・医療法人と連携した取り組み、教育プログラムとして実施している農業従事研修の実施とその成果、保護者を対象とした研修会の実施とその成果、卒業後の余暇活動支援の実施とその成果など多岐にわたります。この3年間の研究成果を広く普及させ、全国の高等専修学校で学ぶ当該生徒にとって、より理解された活躍の場が開かれ、一層充実した社会生活を送ることができる社会の実現を目指します。

今年度の工事完了

夏休みを利用して、LED化工事及び全館一斉放映システムの工事が終了しました。春休み中に園庭の人工芝のクリーニングメンテナンスと合わせて今年度のすべての工事が終了しました。これらの工事により、学習環境の整備がなされ、生徒の活動を一層充実させていきます。



新しく設置されたLED照明

コロナ禍での療育支援

4月の緊急事態宣言発令を受けて、教育センターはプログラムを休講としました。子どもたちが通う園や学校も休校になり、日常の居場所やサポートが途絶えてしまう可能性があることから、教育センターとして、家庭療育の継続をサポートしていくことを中心に対策を進めました。子どもたちが家庭でも意欲的に学べるよう、幼児の製作課題をはじめ、知的開発や教科学習のプリント、目や耳から学べる視聴覚教材、エクササイズ動画など、数百種類にも及ぶ課題を供給しました。学習プリントは、『れんらくアプリ』を使って配信し、家庭で自由に印刷して使っていただけるようにしました。動画やスライドは、YouTubeの教育センター会員限定ページにアップしたことで、「子どもが自分でアクセスして繰り返し見ることができた」「きょうだいで楽しむことができた」と好評でした。

先の見通しが持てないために、親子へのストレスがかかる状況が予想されることから、電話やオンラインによる教育相談、子どもの情緒が乱れた際の緊急の居場所の提供も行いました。そして、休講中にあっても、施設や教具の消毒を徹底し、いつでも子どもたちを受け入れられるよう配慮しました。

5月になり緊急事態宣言が解除されましたが、教育センターは行政や受講者のニーズを考慮して5月12日からプログラムを再開しました。再開初日から、この日を待ち望んでいたとばかりに多くの子どもたちが戻ってきました。8月の段階では、公共交通機関での通所が心配で見合わせているご家庭がありましたが、現在は9割ほどが受講を再開しています。また、新規受講者も増えており、教育センターに今まで通りの活気が戻ってきました。

プログラムの実施に際しては、検温、マスクの着用、手洗い、うがい、消毒、3密回避の励行を徹底し、東京都が推奨する『感染防止徹底宣言ステッカー』を取得して自己啓発に努めています。

サマープログラム

8月11日から15日まで、夏休み恒例のサマープログラムを開催しました。例年は5日間のプログラムを2回実施していますが、今回は1回に集約しての実施です。コロナ禍にも関わらず62名の参加者が集まりました。

幼児グループは、初日に、ハメハメハ大王からの手紙を受け取る場所から始まる、ストーリー仕立ての5日間を楽しみました。毎日届く、大王からの手紙にわくわくしながら、王冠や楽器、南の島のフルーツなどを製作しました。

小学1年生から4年生は、国語で手紙の書き方を学びました。書いた手紙を校内に設置したポストに投函し、『ひがし郵便局』で仕分けをして、宛名の場所に配達する活動をプログラム参加者全体で楽しみました。友だちや保護者から自分宛に手紙が届いた時の子どもたちの笑顔が印象的でした。

3・4年生は、「生活の中の算数」の単元で、かさや重さの学習をしました。紙面上の学習だけでなく、計量カップや秤で材料のかさや重さを計測し、手作り石鹸を作る体験をすることで更に理解を深めました。

5・6年生は、ソーシャルスキルの課題として、ビンゴゲームの形式で友だちの名前を覚える活動をしました。自分の名前の文字だけでなく、友だちの名前の文字にも注意を向け、「〇〇君の文字が出たよ」と教え合う姿も見られました。

中学生は、美術の活動で武蔵野東中学校の新堂先生を講師に、フォトコラージュ『おかしなミキサー』を製作しました。雑誌や広告から好みの写真を切り抜き、描いたミキサーの中にレイアウトしていきます。写真の選択や切り方、貼り方にそれぞれの思いが反映しカラフルで個性的な作品が完成しました。

教育センター

感染防止徹底宣言



オリジナル動画の配信 『てあらいのうた』



手紙の書き方と郵便の学習をしました



手づくり石鹸・材料の計量



中学生美術 『おかしなミキサー』

学園創立55周年記念事業(南アルプス・チロル学園購入)のご報告

学園総合

武蔵野東学園創立55周年記念事業募金は、皆様からの温かいご支援により、1,500万円の目標金額を達成することができました。学園による「南アルプス・チロル学園」の購入は、2020年9月25日、南アルプス市議会で正式に承認されました。皆様から頂戴したご理解とご協力に心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

寄付者区分	寄付件数	寄付金額(円)
個人	390件	12,659,000円
法人	37件	3,465,000円
団体	6件	1,230,000円
合計	433件	17,354,000円



学園創立55周年記念事業寄付者お名前 (2020年2月26日～受付終了まで)

浅野井宏之様、荒川駿様、荒川陸様、伊藤雅明様、岩崎芳史様、鎌田正翔様、川井咲和様、川井結文様、須原悠翔様、高橋博幸様、東京西北ロータリークラブ様、中込亮様、中村淳様、林こまり様、福田幹伸様、三好道心様、山中多満起様、2019年度 武蔵野東高等専修学校卒業生保護者一同様、匿名4名様

寄贈者お名前 (2020年2月26日～9月7日)

- ※ 足踏み式アルコール消毒液スタンド 6台 【横山浩一様】
- ※ 空間除菌脱臭機3台 【2019年度 幼稚園卒園生保護者一同様】
- ※ 校名入りテント 【2019年度 小学校卒業生保護者一同様】
- ※ トランシーバー式 7セット、シュレッダー2台、デジタル体重計、デジタル身長計 【2019年度 高等専修学校卒業生保護者一同様】

寄付者お名前 (2020年2月26日～9月7日)

石井久美子様、大黒俊明様、福田保人様、JasonXi様、
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社様、株式会社テヅカ様、
2019年度 小学校卒業生一同様、2019年度 中学校卒業生一同様、母親体操クラブ様、匿名1名様

武蔵野東学園をご支援くださる皆様へ

武蔵野東学園では「混合教育」「生活療法」の更なる充実のために、皆様からのご篤志を随時受け賜っております。学園の実践する様々な教育活動、教育機器ならびに施設の向上や奨学金制度の拡充などに活用させていただきます。ご支援のほどお願い申し上げます。

使途を指定してのご寄付について

学園の教育振興のための一般寄付のほか、幼稚園、小学校、中学校、高等専修学校、教育センター、山梨友愛寮・チロル学園や奨学金制度へのご寄付など、使途を指定したご寄付も受け賜ります。

税法上の優遇措置について

- ・個人名義でのご寄付の場合
「税額控除」「所得控除」という2種類の寄付金控除からどちらかを確定申告時にお選びいただくことが可能です。
- ・法人名義でのご寄付の場合
「受配者指定寄付金」「特定公益増進法人に対する寄付金」とどちらかの手続きをしていただくことで、寄付金額を当該事業年度の損金に算入することができます。
①「受配者指定寄付金」としてのご寄付 → **寄付金全額**を損金算入できます。
②「特定公益増進法人に対する寄付金」としてのご寄付 → **寄付金の一定限度額**まで損金算入できます。

資料請求・お問い合わせの方は、事務局企画広報室(TEL:0422-52-2211)までお願いいたします。

幼稚園

募集などのお知らせ

【健常児対象】 自閉症児に関しては、武蔵野東第二幼稚園にお問い合わせください

園児募集説明会	2020年10月10日(土) 武蔵野東第二幼稚園にて
願書受付	2020年11月 1日(日) インターネット出願
入園面接	2020年11月 1日(日) 武蔵野東第二幼稚園にて

*その他詳細や未就園児対象行事についてはWebページをご確認ください

小学校

【健常児対象】 自閉症児に関しては、お問い合わせください

第3回入試説明会	2020年10月 2日(金)10時～12時 Web申し込み
第2回土曜親子見学会	2020年10月 2日(金)10時～12時 Web申し込み
わくわくスクール	2020年11月 7日(土)10時～11時 Web申し込み(年中児対象)
個別見学	平日9時～16時の間(要相談)説明、授業見学 お電話にてお問い合わせください
入学試験 第1回	2020年11月 3日(火)、4日(水)よりいずれかを選択
入学試験 第2回	2020年11月21日(土)

中学校

【健常児対象】 自閉症児に関しては、お問い合わせください

学校説明会	2020年10月17日(土)、11月21日(土)、12月5日(土)、12日(土)、1月9日(土)
(保護者対象)	*10月17日と12月5日は14時～、それ以外は各回とも9時30分～
オープンスクール	2020年10月17日(土)14時～16時 学校説明会を同時開催
(外部小学校5～6年生対象)	

入試対策講座	2020年12月12日(土)9時～【適性型】
(外部小学校6年生対象)	2020年12月 5日(土)13時45分～、1月9日(土)9時～【2科型】

*すべてWebページにて事前の申し込みが必要です *2021年度入試要項はWebページに掲載しています

高等専修学校

総合キャリア学科(絵画、陶芸、体育、調理・製菓、ファッション、情報ビジネスの専門6コースから、半期ごとに1コースを選択)

学校説明会 第1回	2020年10月17日(土)10時～11時30分	第2回:2020年11月28日(土)10時～11時30分
第3回	2020年12月12日(土)10時～11時30分	※Web学校説明会も随時受付しています

1日体験入学(中学校3年生対象)10月3日10時～、31日10時～、11月7日10時～、12月5日13時30分～、1月9日10時～

*申し込み等詳細については、生徒募集資料もしくはWebページでご確認ください

*LINEを使った個別相談も平日(土・日・祝以外)10時～17時に受付しています

教育センター

下記ご希望の方は、教育センターへお問い合わせください(TEL0422-53-8585)

療育プログラム ※随時募集していますので、ご連絡ください

季節特別プログラム(サマープログラムは終了しています)

ウィンタープログラム 対象:年中児～中学生 実施日:2020年12月26日～12月28日(3日間)

スプリングプログラム 対象:年中児～小4年 実施日:2021年 3月28日～ 4月 1日(5日間)

保護者・支援者向けセミナー 2020年11月26日、2021年2月19日

教員見学説明会 2020年11月 7日